

新生児黄疸

症状、スクリーニング、治療

新生児黄疸とは?

新生児期に起こる肌や眼の強膜、粘膜が黄染されることです。

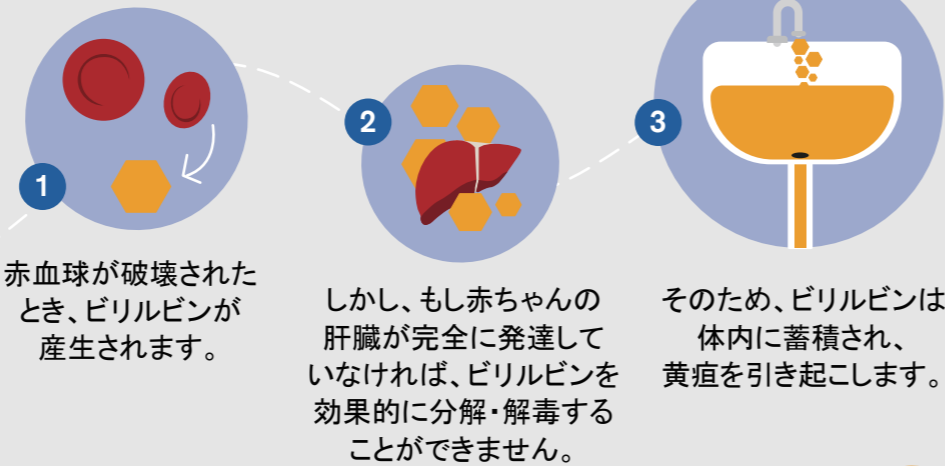


60% に及ぶ正期産児と、ほぼすべての早産児に黄疸のサインがみられます。

黄疸のその他の症状

- 排泄物が少なく、おむつ交換の頻度が少ない
- あまりミルクを飲まず、体重増加率が悪い
- 甲高く激しい啼泣をし、寝たり穏やかに過ごしたりできない

原因は何?



ご存じですか?



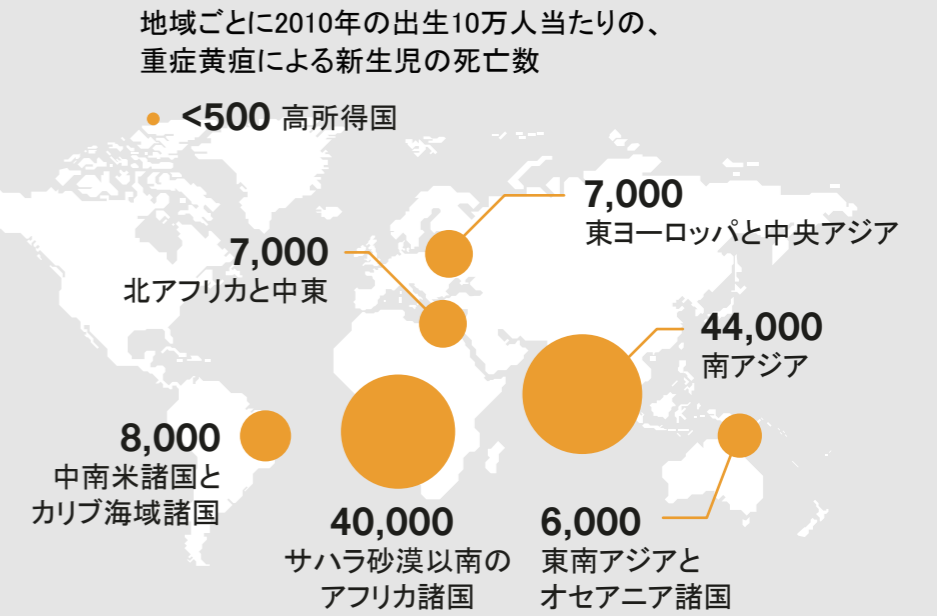
5人中4人の健康な新生児に黄疸が出現します。

東アジア地域と地中海地域出身のご両親から生まれる赤ちゃんは、黄疸発症のリスクがさらに高まります。

1970年から
2,150,000人の赤ちゃんが光線治療を受けてきました。

核黄疸のリスク

珍しいケースでは、ビリルビンは脳内に広がり、脳内細胞を破壊し、けいれんの原因となったり脳へのダメージを引き起こしたりします。



スクリーニング

経皮的ビリルビン値(TcB)スクリーニングは、新生児の皮下組織の黄染を測定します。

- 非侵襲的
- 迅速な結果
- 赤ちゃんやご両親へのストレスがない

もしTcB測定値がある値を超えていたら、総血清ビリルビン(TSB)の採血が必要です。

- 血中のビリルビン濃度を測定
- 生後24時間以内に実施
- 踵から血液サンプルを採取

治療

黄疸は光線療法によって、比較的簡単に治療されます。ブルーライトを照射することによって、血清ビリルビンのレベルを低下させます。もし、ビリルビンが高レベルで持続した場合は、交換輸血を考慮する必要があるかもしれません。